

第208回 番組審議会

1. 日 時 平成23年12月6日(火) 12:00～
2. 場 所 ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウィング 3階「星雲」
3. 委 員 委員総数 12名  
出席委員数 10名(欠席委員数 2名)

○ 出席委員(敬称略)

中村 慶久(委員長)

三浦 宏(副委員長)

—以下50音順—

久慈 浩介

斎藤 純

東海林 千秋

菅原 正二

藤原 保雄

村上 幸子

八木橋 伸之

吉田 浩次

○ 会社側出席者(6名)

佐藤 滋樹(代表取締役社長)

小原 忍(専務取締役)

藤澤 利憲(常務取締役)

前田 秀男(取締役編成技術局長)

藤原 銀司(取締役営業局長)

大野 高義(フジテレビジョン 情報制作局 情報企画センター  
情報企画部 企画担当部長)

○ 事務局 村田 重昭

#### 4. 議 題

「わ・す・れ・な・い～東日本大震災 155 日の記録～」

平成 23 年 8 月 12 日 (金) 21:00～22:52 放送

#### 5. 議 事 概 要

今回は 8 月 12 日に放送された「わ・す・れ・な・い～東日本大震災 155 日の記録～」を審議しました。議事の概要は以下のとおりです。

##### ●フジテレビ 大野企画担当部長による番組制作にあたっての説明

- ・ 阪神淡路大震災の経験から、震災の記憶を風化させないような特別番組を作らなければならないと、震災後早い段階から考えていた。
- ・ 新聞社の写真集を見て、テレビでも記録としての番組を制作し、事実を映像として残さなければならないと考えた。
- ・ フジテレビをはじめ系列局が撮った膨大な映像の他に、視聴者が撮った数多くの映像も集まっていて、未放送の貴重な映像を、時間をかけてチェックすることから始めた。
- ・ 制作にあたっては、衝撃的な映像をどこまで見せていいのか、常に葛藤があった。
- ・ 衝撃的な映像をただ見せるような番組づくりではなく、津波を検証することを目的とした。
- ・ 番組内では、津波の衝撃的な映像が流れることを告知し、被災者や視聴者に配慮した。

##### ●出席委員の意見や感想

- ・ 津波の映像とともに、CGを使いながら、時系列で津波のメカニズムを説明していたので大変分かり易かった。
- ・ 映像を見る事が辛い場合は、見るのをやめてほしいという配慮は良かった。

- ・堤防によって津波が見えない、音が聞こえないという事を、番組で初めて知った。
- ・冷静なつくりの番組で、学術的な記録としても素晴らしい番組だった。
- ・東北の被災3県だけではなく、都心の液状化現象など、偏ることなく震災の被害を伝えていたことは良かった。
- ・津波、原発、新幹線復旧など内容が盛りだくさんで、もっとじっくり見たかった。
- ・映像をアーカイブとして残して、いつでも見られるようにしてほしい。
- ・「わ・す・れ・な・い」というタイトルが良かった。被災地ではこの震災を忘れてほしくないと、いつも思っている。
- ・震災の記憶を風化させないように、今後も継続的に取り組んでほしい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置  
特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

\*平成23年12月7日(水) 産経新聞 東北版

\*平成23年12月17日(土) 午前4時30分から4時45分まで  
「めんこいテレビ批評」内で放送

\*据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項  
特になし。